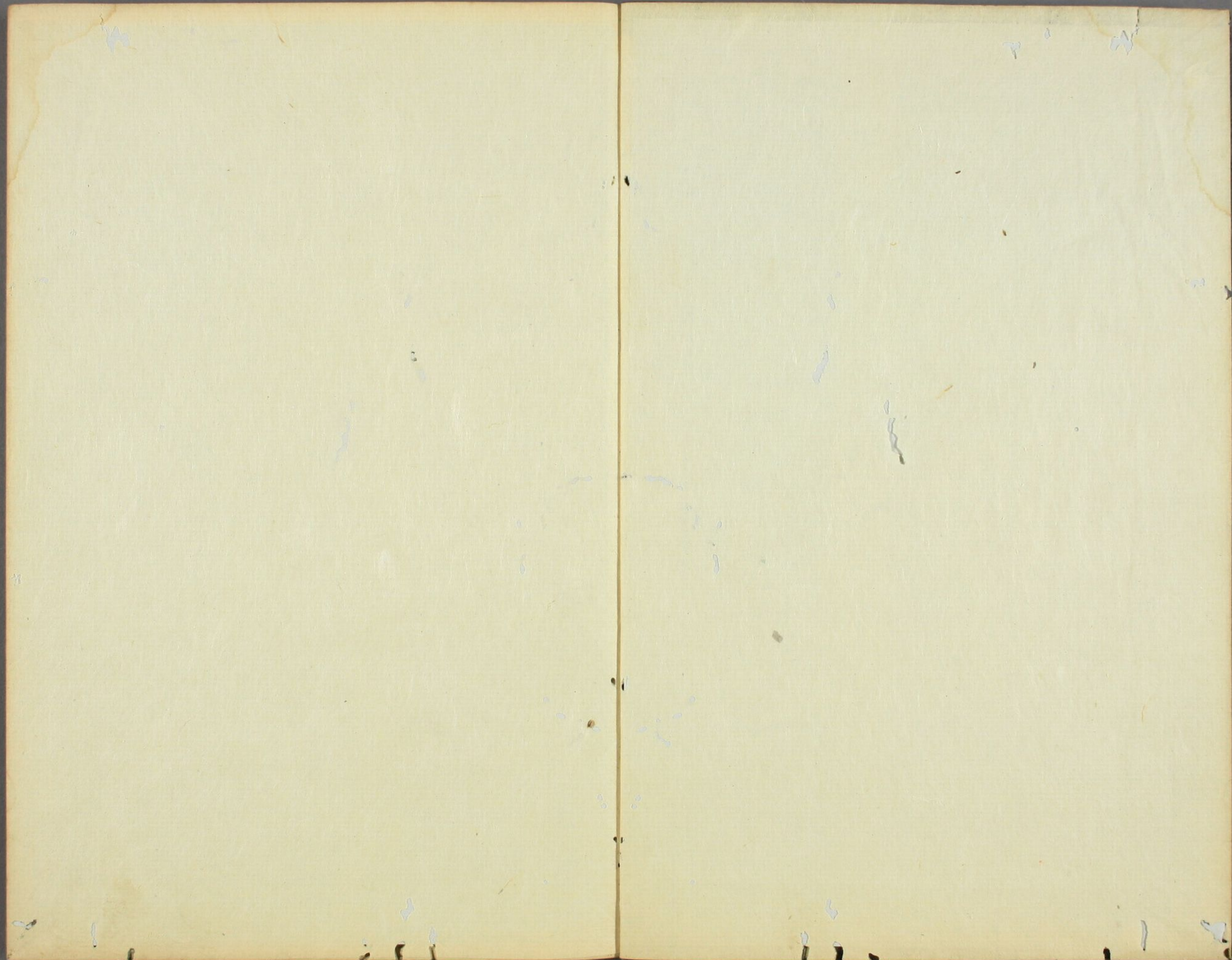


おとろけの巻

六





詞瓊綸六之卷



むすび辞

紐後三轉四十三段又そのふりあるに、あべて結ひ辭を此巻に
出せり、其中にふと形と正なき辭ハ、たゞあそびてつくさるが、

志

き

此も後才一段より才五段まで

○おふら様志とさとお替る言に三つのりる者、一は紐後才一段右のり

志^{左りハ}中^ハのり^ハさ^ハ、^ハ左^ハ之^ハニ^ハ才^ハ才^ハ二^ハ段^ハ右^ハのり^ハ志^ハ中^ハのり^ハ志^ハを^ハ、^ハ左^ハり^ハハ^ハ、^ハ此^ハ也^ハあり

三ハ才三段右のり、さ中^ハのり^ハ志^ハ、^ハ左^ハり^ハハ^ハ、^ハ此^ハ也^ハあり

さて三つれ中に上二段^{才一}の志、いもゆる現在^{才二}の志、下二段^{才三}の志、い

ゆるさ^{才四}志の志あり、^後の各段、小志の志、現在^{才五}志の志、^此の各段、^此は各段ありとさるが、

よのちが後より、上のふとをえにあらひ、^此の各段、^此は各段ありとさるが、^此は各段ありとさるが、^此は各段ありとさるが、

かくて上へ居たは境のうらむの時志と並びぞのや何のわくらむとさ
 さと並び下へ居たらうらむ時志と並びぞのや何のわくらむとさ
 何乃わくらむの時志と並びけり物字はらむがうらむと並びぞのや何と
 けり巻の之を解きまはせり考へ合せてらむと並びぞのや何と

あ **ぬ** **祢** 字の終

若槻義門若槻義門のいふに此の字は不
 の常用とすべしと云ふは補遺の常用とすべしと云ふは補遺
 小舟小舟のいふに此の字は不
 詞のいふに此の字は不

○不のいふと終ぬをわらむとすハ志といふ
 のて不をそせ格をわらむとすハ志といふ
 おまてハ志とむあぶといふ格
 ○この字といふと終ぬをわらむとすハ志といふ

せと終せと終せとつせと終せと終せぬつせぬ消せぬあとのぬい
 ぬ時止格をいせせぬ為のさ
 小吹かむ風のさへ
 小舟小舟のいふに此の字は不
 詞のいふに此の字は不

な **る** **な** 字の終

○ぬありと上小ぬいふぬるをおまてとつせぬ又あうあつありあどつをおま
 てせといり皆あるあせといふ
 ○ななるあるあるいふをいふは終一つせぬ又あうあつありあどつをおま
 よまぬ辞あるふたはななる集の比乃あ小いといひおわらむ

○一つのある

ほのうふれ新橋乃桜花ありかう那と暇るを志めを其ハ来ル り

十 浪寄より見ししきし紀ぞわたりぬるをきつる り まめがうら

一 ちあべつく花のさうりになり り 山のをとふわはき

一 ちうはみしう花のこをとけル り 佳遊川のちれき

一 ちづらきやまのさくさく り ち川このおくにうら

一 ちみしれはさくさく り 嵐はあつさ其のほをが

一 ちいしれはさくさく り 赤山のまそ小あうは

一 ちあへとも山田はくさ り ちく志め隈あをさ

〇 ちいしれはさくさく り ちあへとも山田はくさ

〇 ちいしれはさくさく り ちあへとも山田はくさ

新古今定家集 件の方たのり り ちあへとも山田はくさ

ぬ

ぬ

ぬ

牙十九辰

〇 ちぬいしれ ぬ ちあへとも山田はくさ

ありそのし ぬ ちあへとも山田はくさ

とふきん ぬ ちあへとも山田はくさ

ちぬいしれ ぬ ちあへとも山田はくさ

ちぬいしれ ぬ ちあへとも山田はくさ

ちぬいしれ ぬ ちあへとも山田はくさ

〇 ちぬいしれ ぬ ちあへとも山田はくさ

〇 ちぬいしれ ぬ ちあへとも山田はくさ

後十八

けがのつりありのきる糸よりいんがそしやもえぬとありんを

拾三

うしろそんぶとくまき一死秋之秋をこれぬむのりそおらるるありぬ

後拾三

よはあがしつらつらあまきいんがそしやもえぬとありんを

拾十

かざりけしとあふりつらぬあまきいんがそしやもえぬとありんを

新録五十七
寸筋

かどちりくまきぬあるあまきいんがそしやもえぬとありんを

拾二十

言系社尾上の言々何せぬとせたくし君が店名はすれぬぬ

此格のぬを今の人のわわわくハ得て得たといふ人のあまきいんがそしやもえぬと思つて
とくまきいんがそしやもえぬとありんを
しひあまきいんがそしやもえぬとありんを
かあまきいんがそしやもえぬとありんを
ま木の村はぬのあまきいんがそしやもえぬとありんを
又いく代へつらぬとありんを

とくまきいんがそしやもえぬとありんを
うまきいんがそしやもえぬとありんを
板なり五のあまきいんがそしやもえぬとありんを
ぬりつて堀川の首のぬとありんを

つ

つ

つ

牙二十版

○はつち上件のぬとおあびて日定あまきいんがそしやもえぬとありんを
をつつとあまきいんがそしやもえぬとありんを
あまきいんがそしやもえぬとありんを
つあまきいんがそしやもえぬとありんを
らしとあまきいんがそしやもえぬとありんを
あまきいんがそしやもえぬとありんを
又まきいんがそしやもえぬとありんを

二 花ごとの花のさうりいあり **あめ** と何むえんこいのちありりぞ
件乃人と花との格ごとい皆うんらめきんきめあんあえてんてあふふ
そわらりてふかひどはとあり

らん **ら免** 舟早千候

○上小ぬ又つまおきせぬんぬめつんつゝ免ちんせ

○あふはさふゆふらん

一 ぶざー你こそ見えて一さうきせはまふくぬせのたごめ

二 久くこれむくりのどき花まの日記志川ふあへ花のちる

三 春のふられつゝつゝあめ里にあししちしむせつゝあふ花のたご

四 月がやどに雲ふぢあめまより色つて水のこむせいのんか

五 秋そ秋りうゝむきまれば何一引の山とよこまつのあへ

六 ちろろくこれあむづくにそふらつうくひぢとのこまのあへ

七 秋風りつそああ琴が秋ありにさへさああく人のあへあふ

八 ちろといへむ枕ごふせやぬあをちまねぬ名のをふら

九 何ぬあむむ里北あふあふたなくさうみんとこの人のあふ

十 ぬら甲あ何ぬあうわがあめあ人のあふあああああ

十一 山の井は清くさうさ思をぬれ氣をうりあ人のあふ

十二 秋風舞身あてしそふらあくに人のあふあああああ

太のあふいづせもよりのとあふあふらんとあふらん
又のあふあふあふあふあふ

古
三

何れとあるに、うのむせう絶世中にあまらざるらん

ハ

日かきてとこと、色ももあつちくふ、くろく小志とてまびらくるらん

ナ
十八

わが身か、う絶世の中とあざまつ、人のとあまらざるらん
此のま下へうのむせうに

いせういよりのと、いづらば

件のおどと、いと、はびとをた、皆そより、体疑ふ、い、何、い、
ゆゑを、絶へる、て、あ、ま、は、ん、と、ま、あ、小、あ、あ、と、い、か、小、通、へ、り、
の、い、ご、一、深、く、深、て、一、ま、の、あ、い、い、ま、消、あ、へ、ぬ、あ、は、花、と、い、あ、ま、
絶、ひ、あ、あ、ぬ、が、花、と、い、あ、ま、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
を、絶、ひ、い、何、と、て、花、と、い、あ、ま、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
花、と、い、あ、ま、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

十

まのどきまきまの、あ、ま、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
んと、い、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
何、と、い、と、い、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
一、あ、
ま、
く、ま、
の、ゆ、く、つ、あ、と、何、と、い、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

新
十五

君、い、ま、れ、ま、の、ゆ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
らん

凡二
康資、王母

君が、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
らん

い、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
何、と、格、の、らん、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

後拾

くせそゆく年と在るぞわくせぬるさうや 妻をあらん

とあらん

十二

こひあんなあまのれをそぢり川ぶらさあがれとあらん

とあらん

こせうの上の何あまひのやあまのれひの辞あり

拾

妻中体かくしひのまてくといわやいふふらん

とあらん

あまの何こつせり

風正
俊成

よとちやおちとあがり花さくとおちぞ人なりらん

とあらん

三

昨日うちはよせの山づの秋雲かのためとつせり小のこあらん

とあらん

あまの何の辞あまのれそのあまのれをそぢり

後拾

こせうの何あまのれをそぢり

とあらん

十七

あまの何ありあまのれ川れりふるあまのれをそぢり

とあらん

十九

みやこへいそこのまの原いそりり君がふ年にああらん

とあらん

こせうの何あまのれをそぢり

後拾

そのふらあまのれをそぢり

とあらん

船形二
殿宮内度大捕

さくさくあまのれをそぢり

とあらん

源氏
あまの

あまのれをそぢり

とあらん

〇らん

後拾
三

あまのれをそぢり

らん

らん

オロキ

おひらひらと
ついでにおま
てきんはあぐあ

○よふ又てをねらておきんてきんととせいつり、その中にあきんちつこのあき

たかた免とあぶつこの免その免どおるあつたおきて **きん** じ

たき川あみ言くしり日おへりさとみやと人きさうて **きん** じ

年へおし人乃おとせおぢてらせおてやし **きん** じ

ぬく風のもちりにしやし **きん** じ

ふたさみ火桶のおきやうて **きん** じ

○きんちあのおき **きん** じ

よ登小のこさるゆ物をおとせ川 **きん** じ

こせよふおせおき **きん** じ
おとせよふおせおき **きん** じ

○きん二つあき

わうせてふたとあき **きん** じ

いふへい **きん** じ

○あきんのおき

あきんのおき **きん** じ

あきんのおき **きん** じ

あきんのおき **きん** じ

あきんのおき **きん** じ

あきん

あきん

あきん

〇つと此あんまちと形もともあ

里語 テクレ
テクレヨ也

四段の活詞

四段の活詞を
乳のまごの乳

ハチ一の音よ
りまけけ

音の音よ
ハチ一の音
よりまけけ
あり

此あんは同
ハチ一の音よりあん
あり

〇乳のまごのあん 此格二つと川小川かさとかをよらうつとぎり
常のあんハチ一の音よりまけけ

十五 目まき草のまきまきやまきまきと作せも形も人のこころりやまきまき **あん**

まきまき
あんまき
あんまき
あんまき
あんまき
あんまき
あんまき
あんまき
あんまき
あんまき

十六 いまけけへりまきまきをまきまきと作せも形も人のこころりやまきまき **あん**

いまけけ
あんいま
あんいま
あんいま
あんいま
あんいま
あんいま
あんいま
あんいま
あんいま

十七 まぐら山み〇乳のまご茶んあゝバウ一まきまきのみまきまきと **あん**

まぐら
あんまぐ
あんまぐ
あんまぐ
あんまぐ
あんまぐ
あんまぐ
あんまぐ
あんまぐ
あんまぐ

十八 人志まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき **あん**

人志
あん人志
あん人志
あん人志
あん人志
あん人志
あん人志
あん人志
あん人志
あん人志

ハチ一の音よりあん
あり
ハチ一の音よりあん
あり
ハチ一の音よりあん
あり
ハチ一の音よりあん
あり
ハチ一の音よりあん
あり
ハチ一の音よりあん
あり

ハチ一の音よりあん
あり
ハチ一の音よりあん
あり
ハチ一の音よりあん
あり
ハチ一の音よりあん
あり
ハチ一の音よりあん
あり
ハチ一の音よりあん
あり

ハチ一の音よりあん
あり
ハチ一の音よりあん
あり
ハチ一の音よりあん
あり
ハチ一の音よりあん
あり
ハチ一の音よりあん
あり
ハチ一の音よりあん
あり

新葉 一 春日山をのへの音にええええええええええええええええええええええ **あん**

春日山
あん春日
あん春日
あん春日
あん春日
あん春日
あん春日
あん春日
あん春日
あん春日

二 鳥のえつ、何をげんやまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき **あん**

鳥のえつ
あん鳥の
あん鳥の
あん鳥の
あん鳥の
あん鳥の
あん鳥の
あん鳥の
あん鳥の
あん鳥の

太の格をまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

の白ふありてはとおあトととととと

下二段の活詞
十八 人志まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき **あん**

下二段の活詞
十八

いせをあんといふべき格ありあんといひ、但しよふづしりせとあせはり
うあんといひてはつこととせえまじしその時ハつこのあんあり

まべておふこのあんの上のつとては、後のごそのや何あどの辞を未
く例あり。 後松尾七とふかくにうさやをあれぬうさよといひて後ぞおひま
らあん此あよふぞといひてあらんおひの格のあんあくとあめとあふ
まごといひよふぞいふてあらんといふまごあらんといふあらんといふ
あせといひてあせ末をわーをうりてあせをうりてあせといひてあせを
あせとあせをわやあせを一首のあせあせといひてあせをうりてあせといひてあせを
あせといひてあせをうりてあせをうりてあせをうりてあせをうりてあせを

○あん二つあ

二 いざいざわきせちり **あん** せとせうりあらんうりあめえ **あん**

いざいざとせよつこのあん
ま

後 りふうは天竺川系もあせ **あん** せよもあつた **あん**

一 やうげとせあはめえ **あん** ま日世をうりあの日あせ **あん**

右後標あふハ上のあひ下ハつこのあん、新左をあふハ上をつこの格下ハあひの
あんあり

○そのまにあふあん

十 ありせうりてあせをわつまあんや **あん** せとせうりせ **あん**

後松 十一 かく **あん** とあせいさう火ふのせうせいのほのあうもあふは

六帖 信能 集 かく **あん** と人あせいさうやゆくせもあつてあふあふあ

好忠 集 しかせが袖あうて人の花のいろをま **あん** 梅とあせあふあ

蛭蛉日記 集 専北末花 **あん** ちるとあせいさう

はあんをあふハいとあせあふ、右の外ハあせあふ

文章に在いとあふ、右の序ハ赤人を人あふが下

八拾

一 口におくことあり **ま** 庭ぞくく敷ての後のねせありせむ

九

二 口におくことあり **ま** 庭ぞくく敷ての後のねせありせむ

又上りをもすしあるま

十

三 口におくことあり **ま** 庭ぞくく敷ての後のねせありせむ

十一

四 口におくことあり **ま** 庭ぞくく敷ての後のねせありせむ

口におくことあり **ま** 庭ぞくく敷ての後のねせありせむ

十二

五 口におくことあり **ま** 庭ぞくく敷ての後のねせありせむ

十三

六 口におくことあり **ま** 庭ぞくく敷ての後のねせありせむ

七 口におくことあり **ま** 庭ぞくく敷ての後のねせありせむ

○下の詞へつぐま

保良
夕彦

八 口におくことあり **ま** 庭ぞくく敷ての後のねせありせむ

十九

九 口におくことあり **ま** 庭ぞくく敷ての後のねせありせむ

○ま二つあるま

十 口におくことあり **ま** 庭ぞくく敷ての後のねせありせむ

○一つのま

十一 口におくことあり **ま** 庭ぞくく敷ての後のねせありせむ

十二

十二 口におくことあり **ま** 庭ぞくく敷ての後のねせありせむ

十三

十三 口におくことあり **ま** 庭ぞくく敷ての後のねせありせむ

大和
名語

十四 口におくことあり **ま** 庭ぞくく敷ての後のねせありせむ

十二 山里を秋丁燈とよみびりばせ 麻のたきくねふをさへし [?]

十三 筑波松の木のりとしとよみまきらば 春のみやふに陰をさひ [?]

十四 川のまふちりまをぬん かくるをみのわけのこ色をさへし [?]

十五 天の川意しれせまぞわたりぬる ちかき川渡ふ神をぬき [?]

十六 君がふかうくみつるうね ぬれつるもふもふしの名をたれ [?]

十七 木のくさひのついでにありにあまどと上へつる櫓あるなふ申ふあるもいど

ことを上の件れつとむとりあま

十八 春羽山をうらま [?] 河を板北界のこあに年をさるうね

十九 きのえ [?] あまが年ゆるうらまにうぬを人をさるうね

二十 月散ふはまぬ人まきるあまきりるうらまをいび [?] もゆん

日 人しきたぬあまきりうらま [?] もあまをぞとふいとよみ物を

後 いうたぬ君が板松の命をたうしとえ [?] も板松をさ

こまきれるむむのついでにありとしかぬひをさふされど上のつと

別あるたえ何んいどついで中におのつとかくはまもが何るありさ

まけあぐうあまひくさまゆつと下にせを原とさひおあま [?] きて

てといひてせまふしをありつとてはてせといひて

うらまはてそのてせに即あぐうせといひて

○下にうらまをぬくはていひてつと

十一 春がきたたてうらまにみりしとての山ふをいひ [?]

十二 梅枝をさあるうくひあまうけてあまをいひ [?]

まにやうつとまよふとてしよとてぬくめを

日 君がたは妻に叶ふ出で 日るかつとまよふとてしよとてぬくめを ?

まにやうつとまよふとてしよとてぬくめを

日 山ざくらわがたふくまはば 日るかつとまよふとてしよとてぬくめを ?

まにやうつとまよふとてしよとてぬくめを

日 やどりせし人のあつとまよふとてしよとてぬくめを ?

音のあつとまよふとてしよとてぬくめを

日 風ぬきばあつとまよふとてしよとてぬくめを ?

音のあつとまよふとてしよとてぬくめを

日 阿つとまよふとてしよとてぬくめを ?

やうまよふとてしよとてぬくめを

日 十ひまよふとてしよとてぬくめを ?

音のあつとまよふとてしよとてぬくめを

日 夕されをいとまよふとてしよとてぬくめを ?

音のあつとまよふとてしよとてぬくめを

日 十三にゆきかたまよふとてしよとてぬくめを ?

音のあつとまよふとてしよとてぬくめを

日 あけぬとまよふとてしよとてぬくめを ?

音のあつとまよふとてしよとてぬくめを

日 花がしれたにゆきかたまよふとてしよとてぬくめを ?

むれがくせつて下たのこころのくさし

口 ナカ 六身やといはれしものあしむくし一のあしむくしをたぢきしれ ?

まろくれつていふがえりけりききよとめくせし

後 六 秋の田はうそふのいふれとふげあしむらうせでいふれ ?

あふぬきつて秋の秋よりあつたるもれ いふれ

後 一 其のけりいふれとふげあしむらうせでいふれ ?

人ふ志きつていふれとふげあしむらうせでいふれ

太のあせのいふれつとといひあつて上つていふれ ?

そのいふれとふげあしむらうせでいふれ ?

いふれとふげあしむらうせでいふれ ?

あつたるもれ

永 六 田子いふれにうちあつていふれ ?

いふれとふげあしむらうせでいふれ

いふれ

○ いふれ ねふれいふれいふれ ?

いふれとふげあしむらうせでいふれ ?

又 いふれ ねふれいふれいふれ ?

いふれとふげあしむらうせでいふれ ?

十三 まくしうり又志る人をあはれつひを後せまへ入あししつる
うか

十四 さつとてそしめべくりまきせよの中につつある物とおすひらる
うか

十五 君が代り河を板山のいもあまがくきしうとあつひらる
うか

十六 何おすひまうん六世
いさしひたけういさしうをりまきしう六世あはれあんはういさしうをりまきしう
いさしうをりまきしういさしうをりまきしういさしうをりまきしう

十七 志るしあまの秋をいさく うか うへひ所の今年のもちるむあつひらる

十八 阿比多ぬせうれもあまぬせういさあひひまはせとるむいさ
うか

あまのいさあひひまはせとるむいさあひひまはせとるむいさあひひまはせとるむいさ

○ぬうま

十九 ちてゆりま人をとるあまにうあまのいさあひひまはせとるむいさ
うか

二十 日か門のいさあひひまはせとるむいさあひひまはせとるむいさ
うか

六世 志をてあまのいさあひひまはせとるむいさあひひまはせとるむいさ
うか

いさあひひまはせとるむいさあひひまはせとるむいさあひひまはせとるむいさあひひまはせとるむいさ

か か か

○おふろそとがなとほくくしあまづういさあひひまはせとるむいさ
うか

あしがふあはれかを溜りてあまのいさあひひまはせとるむいさ
うか

里語有ツテヨ
カロク

左 かくつとあまのいさあひひまはせとるむいさあひひまはせとるむいさ
うか

十 花の木あはれあまのいさあひひまはせとるむいさあひひまはせとるむいさ
うか

後 名あしあまのいさあひひまはせとるむいさあひひまはせとるむいさ
うか

二六

十八 ちるまふしりおるきと上見んすゝ愛れ人のこころをよくと。 いづがふ

いづがふとつしよとよひみちを留りておるかとすし
あまはつてつしよのつかあまのなま

○しづか

三 秋あきてはぬまぶ麻をまき しづか をりけりあうれ身はいたるをうと

ちるまふしりおるきと上見んすゝ愛れ人のこころをよくと
物さゆにやけてあまのまの月をまきしづか秋あきてはぬまぶ麻をまき
しづか秋あきてはぬまぶ麻をまきしづか秋あきてはぬまぶ麻をまき

○ふーがふ

赤原門 集 みやこおのりふたぬうと牛ふりしをまきしづか ふーがふ

夫木 俊成を いそがくをまかぢあぢぬをまきしづか ふーがふ

しづか秋あきてはぬまぶ麻をまきしづか秋あきてはぬまぶ麻をまき
十三秋の秋あきてはぬまぶ麻をまきしづか秋あきてはぬまぶ麻をまき

玉信の秋あきてはぬまぶ麻をまきしづか秋あきてはぬまぶ麻をまき
ふくしとつしりあまのまの月をまきしづか秋あきてはぬまぶ麻をまき
う山あきてはぬまぶ麻をまきしづか秋あきてはぬまぶ麻をまき

○つーがふ

十九 みやあー山乃口な つーがふ 思ひのいろれ下掛をみせん

後 十 におひつ つーがふ おまをみせ

口 ちりび つーがふ まつをみせ

拾 八 ちさつ つーがふ をみせ

口 十 ちやう つーがふ をみせ

大く つーがふ をみせ
玉の葉にやう つーがふ をみせ
○ つーがふ をみせ

右 十 ころろぐへあつらひのル **じが** アラバヨカロキクムシシヤイモクヤチウ

後三 万八 ころろどれ尾むがうへのあつらひをきこびてむにぬく物ル **じが**

此年じがの集小にあり

○ **じが** 志がふにおあ

右 十 つかぐねをさやふじえ **し**が ちりき形くよくちりしせらるるやの中山

右 十一 ちりき **ま**を後え **し**が とつら妹ふあそんうじ玉のをれあしきる燕の志がはじら

○ **あ**ーが **あ**ーつかあは

後 十三 いせの海へあそぶあふとせあま **あ**が ぼく宛多々みるせつぐん

好思 集 ころろうし原さ山ふれい **あ**が のころ小まうてうきよはてさん

女所集 **い**くぢあふま日つかあに **あ**が おりそぬ山うかろわぞせド

○ **て**ーが **て**ーつかあは

右 十 何ふあふ今せえ **て**が 山ぐり乃かまふにさきるや万せあて

右 十一 おもふぢらあれ山べううちむをてそこさいえぬ稼藤 **て**が

後 十二 **い**とかくてやまぬふうはひあづぬれむうのまふも思を **て**が

此年万葉小にあり

○ **せ**が **せ**

右 十 つかぐのを祢う山あへ **せ**が テモアルニタイ也 やちとつてやん

右 十一 ころろれゆり **せ**が テモアルニタイ也 ちむに **せ**が **あ**まこをよあ

此年万葉におあり又てつかもあのか集小にあり

おふく **せ**が ガガ **あ**ま **せ**が ハ **あ**ま **せ**が ハ **あ**ま **せ**が ハ **あ**ま **せ**が ハ

ふふ田のむらさきとてわてそ外ハ例あり

新編撰十九の世の海おさのふ原花ふがしつて妹がなつとせんこれた例ふ
まぶがしつはふに方葉三つをて花はれつと何るを改修を入せらるるん
ふはあせ方葉はむらさきかく何とめて入る誤りあつにあり又原氏橋姫
は橋姫の老の詞一本に
かのあまのちのふとあり
はまのこひのこひ

○わかとわかと何のま

後拾 三二 君りまをえまー わかづりーいのちまきくせ が と ひ り る う か

